

令和 3 年度支部事業実施概要

(令和4年3月31日現在)



日本赤十字社 山形県支部
Japanese Red Cross Society

1 国内災害救護

「災害から人々のいのちと健康を守ること」を軸として、災害時の初動救護活動を迅速・的確に行うための人材の育成に努めるとともに器材の整備を行い、地域においては防災・減災に関する知識の普及啓発活動を推進し、災害対応能力の強化を図る。

(1) 医療救護班の編成と防災ボランティアの登録

県内9か所の自治体病院等に赤十字医療救護班を編成するとともに、赤十字救急法等指導員からなる防災ボランティアを登録している。

① 医療救護班の編成状況

地区	救護班名	救護班員の登録者						こころの ケア 指導者
		医師	看護師長	看護師	薬剤師	主事	計	
村山	日赤山形県立中央病院救護班	2名	2名	4名		2名	10名	2名
	日赤山形市立病院済生館救護班	1名	1名	2名		2名	6名	1名
	日赤北村山公立病院救護班	2名	1名	5名	1名	2名	11名	1名
	日赤山形県立河北病院救護班	1名	1名	2名		2名	6名	1名
最上	日赤山形県立新庄病院救護班	2名	1名	4名		3名	10名	2名
置賜	日赤米沢市立病院救護班	2名	1名	3名	1名	3名	10名	1名
	日赤公立置賜総合病院救護班	1名	1名	2名	1名	2名	7名	1名
庄内	日赤鶴岡市立荘内病院救護班	1名	1名	4名		2名	8名	2名
	日赤日本海総合病院救護班	1名	1名	2名		2名	6名	1名
合 計		13名	10名	28名	3名	20名	74名	12名

② 防災ボランティアの登録状況

村山地区	最上地区	置賜地区	庄内地区	合 計
43名	1名	11名	17名	72名

(2) 災害救護対応力の強化

① 各種会議研修会への救護班及び支部職員の派遣

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じたうえで、各種研修会・会議に職員及びボランティアを派遣し、知識の向上に努めた。

No.	研修・会議名	期 日	場 所	参加者
1	山形県災害ボランティア支援ネットワーク連絡会(Web)	6月17日(木)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 1名
2	第1ブロック支部事業推進課長会議(Web)	6月18日(金)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 1名
3	防災教育事業指導者養成研修(Web)	8月21日(土) ～22日(日)	日赤県支部 (山形市)	指導講師 1名 支部職員 1名
4	山形県災害ボランティアセンター運営研修会(基礎編)(Web)	9月2日(木)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 1名
5	防災教育事業主任指導者研修(Web)	9月10日(金)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 1名

No.	研修・会議名	期 日	場 所	参加者
6	山形県災害ボランティアセンター運営研修会(スキルアップ編)	12月14日(火)	山形県自治会館 (山形市)	支部職員 1 名
7	赤十字救護班連絡会(Web)	12月17日(金)	日赤県支部 (山形市)	救護班員 14 名 支部職員 2 名
8	蔵王猿倉スキー場安全合同総合訓練	12月21日(火)	蔵王猿倉スキー場 (上山市)	支部職員 1 名
9	こころのケア指導者養成研修会(Web)	2月11日(金) ～13日(日)	米沢市立病院 (米沢市) 鶴岡市立荘内病院 (鶴岡市)	救護班員 2 名

② 防災ボランティアスキルアップ研修会の実施

赤十字防災ボランティアの意識の高揚とスキルアップを図り、災害時において効果的な救護活動が行える人材の育成に努めた。

No.	期 日	場 所	参加者
1	7月31日(土)	酒田市地域福祉センター (酒田市)	防災ボランティア 2 名 支部職員 1 名 合 計 3 名
2	8月1日(日)	日赤県支部、 山形ロジスティクス・センター (山形市)	防災ボランティア 7 名 支部職員 2 名 合 計 9 名

③ 日赤山形県支部災害救護訓練の実施

大規模災害発生時における初動からの基本的な活動を確認し、職員の災害対応力の向上に努めた。

No.	訓練名	期 日	場 所	参加者
1	日赤山形県支部災害救護訓練 (緊急地震速報対応行動訓練、災対本部設置訓練)	4月28日(水) 13:00～15:00	日赤県支部 (山形市)	支部職員 13 名
2	日赤山形県支部災害救護訓練 (大型テント[DRASH]設営研修)	5月26日(水) 14:00～16:30	日赤県支部 (山形市)	支部職員 13 名
3	日赤山形県支部災害救護訓練 (災対本部設置訓練)	1月6日(木) 10:00～11:00	日赤県支部 (山形市)	支部職員 12 名

④ 防災士資格の取得

防災に関する幅広い知識を身につけ、災害発生時に適確な対応を取るために支部職員が防災士資格を取得した。

なお、来年度には、支部職員全員が同資格を取得する。

No.	研修名	期 日	場 所	参加者
1	山形県防災士養成研修講座	11月20日(土) ～21日(日)	山形県庁講堂 (山形市)	支部職員 4 名

(3) 災害救護活動用器材の整備

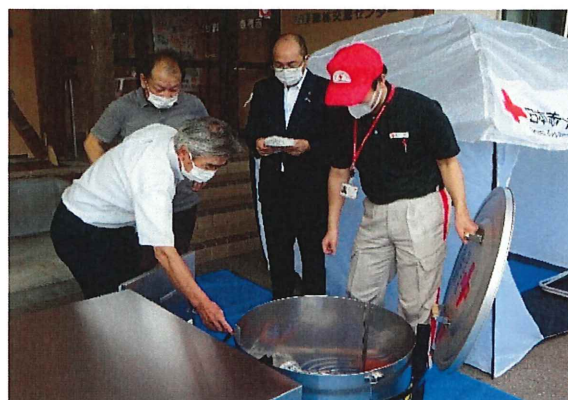
① 野外炊飯器、ワンタッチテントの配備

災害時に迅速に救護活動を実施するため、野外炊飯器、ワンタッチテントを各地区分区に配備している。
当初予算で措置したワンタッチテント5地区分区に加え、コロナ禍で実施できない事業に係る予算を活用し、次年度以降に配備を予定していた地区分区について前倒しで、野外炊飯器を2地区、ワンタッチテントを6地区分区に配備した。

野外炊飯器配備先 (2)	新庄市地区、南陽市地区
ワンタッチテント配備先 (11)	鶴岡市地区、酒田市地区、村山市地区、金山町分区、大蔵村分区
	鮭川村分区、戸沢村分区、小国町分区、白鷹町分区、三川町分区 遊佐町分区



事務局長から地区分区長へ器材の交付



地区分区職員への器材の説明

② 避難所用簡易テントの整備

コロナ禍での災害対応として、避難所で何らかの症状がある避難者の収容やプライバシー保護のためのスペースとして使える避難所用簡易テント100張を支部に整備した。



設営時

幅:205cm
奥行:205cm
高さ:183cm



収納時

長さ:75cm
直径:15cm

(4) 救援車の設置助成

災害時における地域住民の避難・救護活動、その他赤十字事業の推進を図るため、地区分区に対し、救援車の設置に係る経費を助成した。

助成先	天童市地区、最上町分区
助成額	2,000,000円



(5) 赤十字防災セミナーの実施

地域や赤十字奉仕団の要請を受け、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じたうえで、支部職員を派遣し、防災・減災の知識について研修を行った。

また、10月からは、従来の内容に加え、新たに「災害発生時に感染症から身を守る」をプログラムに組み込んだ防災セミナーを開始した。

No.	行事名	期 日	場 所	内 容	参加者
1	中山町女性団体連絡協議会防災セミナー	11月9日(火)	中山町 中央公民館 (中山町)	・地震から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る ・災害救援物資について	中山町女性団体連絡協議会 38 名 支部職員 1 名 合計 39 名
2	酒田市赤十字奉仕団防災セミナー	11月24日(水)	酒田市 市民会館 希望ホール (酒田市)	・地震、大雨、土砂災害から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る ・災害救援物資について	酒田市赤十字奉仕団員 30 名 支部職員 2 名 合計 32 名
3	米沢市赤十字奉仕団防災セミナー	11月29日(月)	北部 コミュニティセンター (米沢市)	・大雨、土砂災害から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る ・災害救援物資について	米沢市赤十字奉仕団員 20 名 支部職員 1 名 合計 21 名
4	鶴岡市第十民生児童員協議会防災セミナー	12月15日(水)	京田 コミュニティ防災センター (鶴岡市)	・大雨、土砂災害から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る ・災害救援物資について	鶴岡市第十民生児童委員 10 名 支部職員 1 名 合計 11 名
5	小国町赤十字奉仕団防災セミナー	12月18日(土)	小国町 健康管理センター (小国町)	・大雨、土砂災害から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る ・災害救援物資について	小国町赤十字奉仕団員 15 名 支部職員 1 名 合計 16 名
6	鶴岡市羽黒町赤十字奉仕団防災セミナー	1月19日(水)	やまぶし 温泉ゆぽか (鶴岡市)	・地震から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る ・災害救援物資について	鶴岡市羽黒町赤十字奉仕団員 29 名 支部職員 2 名 合計 31 名
7	令和3年度赤十字ボランティア・リーダーシップ研修	3月18日(金)	日赤県支部 (山形市)	・地震から命を守る ・暮らしをつなぐ ・感染症から身を守る ・災害救援物資について	赤十字奉仕団員 17 名 支部職員 3 名 合計 20 名



奉仕団総会にて防災セミナー開催

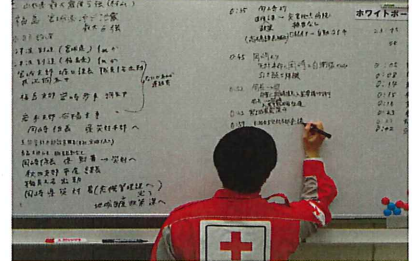


災害時の救援物資について説明

(6) 災害救護活動

① 福島県沖を震源とする地震への対応

令和4年3月16日(水)に福島県沖を震源として発生したマグニチュード7.4の地震に対し、速やかに職員全員が参集し災害対策本部を設置した。直ちに山形県災害対策本部(山形県庁)に職員を派遣するとともに、最大震度6強を観測した宮城県及び福島県支部と連絡を取り、被害状況や医療・救援物資ニーズの把握に努めた。



・連絡調整員(リエゾン)の派遣

山形県災害対策本部に連絡調整員を派遣し、被災情報の収集及び関係機関との情報共有に努めた。

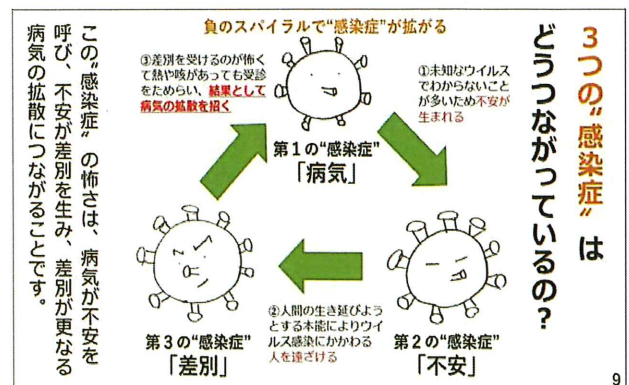
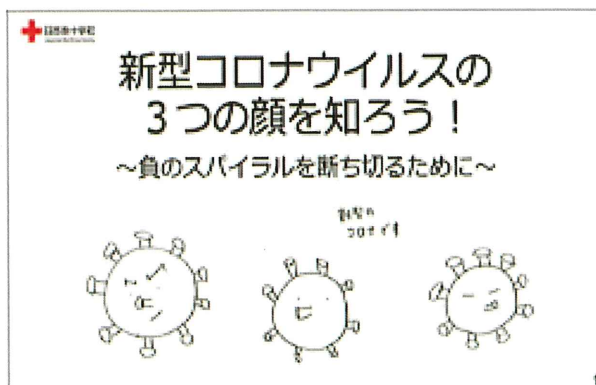
派遣先	派遣期間	活動内容	人数
山形県災害対策本部 (山形県庁)	3月17日(木)	情報収集及び関係機関との連携 山形県災害対策本部員会議への参加(計3回)	支部職員1名 (延べ3名)



山形県災害対策本部員会議へ陪席

② 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為の普及啓発

新型コロナウイルス感染症の持つ病気・不安・差別という「3つの顔」が、「負のスパイラル」として更なる感染拡大につながっていることから、「負のスパイラル」を断ち切るための正しい知識を身に付けることを目的とした研修会を実施した。

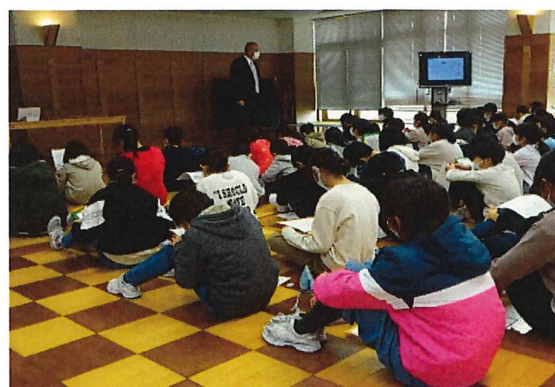


《新型コロナウイルス感染症を正しく理解するための研修会》

No	期 日	場 所	参加者
1	5月13日(木)	寒河江市総合福祉保健センター (寒河江市)	寒河江市民生委員児童委員協議会 81 名 支部職員 2 名 合 計 83 名
2	9月17日(金)	南陽市健康長寿センター (南陽市)	南陽市ファミリー・サポート・センター 南陽市社会福祉協議会職員 7 名 支部職員 1 名 合 計 8 名
3	11月9日(火)	中山町中央公民館 (中山町)	中山町女性団体連絡協議会 38 名 支部職員 1 名 合 計 39 名
4	12月17日(金)	南陽市立赤湯小学校 (南陽市)	南陽市立赤湯小学校5学年生徒及び 教職員 99 名 支部職員 2 名 合 計 101 名
5	12月18日(土)	ファミリー斎場 山形迎賓館 (山形市)	ファミリー斎場山形迎賓館職員及び 一般来場者 14 名 支部職員 1 名 合 計 15 名



多数の地域から参加いただいた寒河江市民生委員児童委員協議会の研修会



南陽市立赤湯小学校5年生を対象とした研修会

(7) 被災世帯への援護

火災等で住家が被災した世帯に対して、毛布・緊急セット等の救援物資及び見舞金を交付したほか、災害（火災）による死亡者弔慰金を贈呈して被災世帯の援護を図った。

[救援物資の配付及び見舞金、弔慰金の交付状況]

被災者数	115名 44世帯	
災害救援物資の配付	毛 布	68 枚
	緊急セット	44 個
	学用品セット	4 個
災害見舞金の交付 (全焼・全壊 34 件、 半焼・半壊 8 件)	760,000 円	
災害弔慰金の交付 (5 件)	100,000 円	



被災世帯へ配布される災害救援物資（毛布・緊急セット・学用品セット）

(8) 国内義援金の受付状況

No	義援金名	件 数	金 額
1	平成30年7月豪雨災害義援金	17 件 (632 件)	85,661 円 (57,134,026 円)
2	令和2年7月豪雨災害義援金	25 件 (332 件)	267,695 円 (3,922,397 円)
3	令和3年2月福島県沖地震災害義援金	23 件 (184 件)	159,222 円 (879,090 円)
4	令和3年島根県松江市大規模火災義援金	99 件 (99 件)	131,406 円 (131,406 円)
5	令和3年7月大雨災害義援金	239 件 (239 件)	1,682,322 円 (1,682,322 円)
6	令和3年台風第9号等大雨災害義援金	184 件 (184 件)	528,749 円 (528,749 円)
7	令和3年8月大雨災害義援金	219 件 (219 件)	994,379 円 (994,379 円)
8	令和3年長野県茅野市土石流災害義援金	133 件 (133 件)	190,774 円 (190,774 円)
9	令和4年3月福島県沖地震災害義援金	3 件 (3 件)	50,482 円 (50,482 円)
合 計		942 件 (2,025 件)	4,090,690 円 (65,513,625 円)

※()内は、受付開始からの累計受付件数及び受付額

2 救急法等の普及

人間のいのちと健康、尊厳を守るために、救急法等の5つの講習を通して、具体的な知識や技術を県民に広く普及し、緊急時の応急対応能力を高める。

(1) 指導員の登録状況

救急法	水上安全法	雪上安全法	幼児安全法	健康生活支援講習	合 計
119名	26名	3名	35名	3名	186名

※上記人数は、資格別登録者数。登録者実数は130名。

(2) 救急法等講習の実施

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令や感染拡大防止特別集中期間の実施により、講習を中止とした期間もあったが、講習動画の視聴を取り入れ受講者同士の接触を無くすなどの感染防止対策を十分に講じたうえで講習の普及に努めた。

その結果、昨年度より講習実施回数及び受講者数とも増加し、北海道・東北ブロック支部内で最多の実績となった。また、全国でも講習回数:7番目、受講者数:8番目の実績となった。

講習名	一般普及講習				短期講習		合 計	
	基礎講習		養成講習		実施回数	受講者数	実施回数	受講者数
	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数				
救急法	23回	406名	コロナ感染症拡大により、実技検定等が実施できないため、開催見合わせ中		245回	5,673名	268回	6,079名
水上安全法					13回	307名	13回	307名
雪上安全法					2回	20名	2回	20名
幼児安全法					70回	1,000名	70回	1,000名
健康生活支援講習					0回	0名	0回	0名
合 計	23回	406名			330回	7,000名	353回	7,406名



新型コロナウイルス感染防止対策を十分に講じたうえで、心肺蘇生を学ぶ受講者

(3) 指導員の育成

新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、感染防止対策を十分に講じたうえで、指導員と支部との連携を図るとともに、指導員の知識や技術の向上を目的とした各種会議・研修会等を開催した。

No	研修名	期 日	場 所	参加者
1	救急法等指導員会議	5月19日(水)	山形県総合運動公園 (天童市)	救急法等指導員 42 名 支部職員 4 名 合 計 46 名
2	救急法等指導員 フォローアップ研修	6月26日(土)	日赤県支部 (山形市)	救急法等指導員 1 名 支部職員 2 名 合 計 3 名

(4) イベントを活用した救急法等の普及

新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、感染防止対策を十分に講じたうえで、一次救命処置の大切さを少しでも多くの県民の方に普及し、いのちの大切さについて広めていくために、商業施設及びプロスポーツチームの試合会場で、一次救命処置体験コーナーを設置した。

No	行事名	期 日	場 所	参加者
1	「はたらくクルマ展」での 一次救命処置体験 コーナーの設置	6月13日(日)	イオンモール三川 (三川町)	来場者 200 名 支部職員 3 名 合 計 203 名
2	アランマーレの試合会場 での一次救命処置体験 コーナーの設置	12月4日(土)	山形県総合運動公園 (天童市)	来場者 8 名 救急法等指導員 1 名 支部職員 1 名 合 計 10 名
3	パストラボ山形ワイヴアーンズ の試合会場での一次救命 処置体験コーナーの設置	12月19日(日)	山形県総合運動公園 (天童市)	来場者 18 名 救急法等指導員 2 名 支部職員 1 名 合 計 21 名



心肺蘇生に一生懸命取り組む子どもたち

3 赤十字奉仕団

地域社会における赤十字運動を推進していくため、赤十字奉仕団の育成と技術の向上に努める。

(1) 赤十字奉仕団の登録状況

区 分	団 数	団員数
地 域 奉 仕 団	38 団	4,211 名 (男性 751 名、女性 3,460名)
特 殊 奉 仕 団	5 団	240 名 (男性 147 名、女性 93名)
青 年 奉 仕 団	2 団	177 名 (男性 22 名、女性 155名)
合 計	45 団	4,628 名 (男性 920 名、女性 3,708名)

※上記には、休止中の奉仕団(地域1団、特殊1団)は含まない。

(2) 赤十字奉仕団指導講師の委嘱

赤十字奉仕団活動の活性化と支部事業の推進を図ることを目的に、奉仕活動に精通し、ボランティア活動に対する様々な指導・助言等の役割を担う赤十字奉仕団指導講師を4名委嘱し、活動いただいている。

〔指導講師の委嘱状況〕

村山地区	最上地区	置賜地区	庄内地区	合 計
1名	0名	3名	0名	4名

(3) 本社・支部主催の各種研修・会議の開催状況

新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、開催形態や会場の変更、時間の短縮などの感染防止対策を十分に講じたうえで、奉仕団活動の推進を図るため、各種研修・会議を開催している。

No	研修・行事名	期 日	場 所	参加者
1	青年赤十字奉仕団 全国協議会(Web)	4月24日(土)	委員長宅	青年赤十字奉仕団委員長 1 名
2	赤十字奉仕団委員長会議	5月18日(火)	県自治会館 (山形市)	奉仕団委員長 28 名 支部職員 5 名 合 計 33 名
3	赤十字奉仕団山形県支部 委員会	5月18日(火)	県自治会館 (山形市)	奉仕団委員長 9 名 支部職員 5 名 合 計 14 名
4	赤十字奉仕団中央委員会 (Web)	5月28日(金)	日赤県支部 (山形市)	県支部委員会委員長 1 名 支部職員 1 名 合 計 2 名
5	青年赤十字奉仕団 第1ブロック協議会(Web)	6月5日(水)	日赤県支部 (山形市)	青年赤十字奉仕団委員長 1 名
6	支部赤十字奉仕団担当者 会議(Web)	6月10日(木)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 1 名
7	全国青少年赤十字賛助 奉仕団協議会総会(Web)	7月17日(土)	日赤県支部 (山形市)	県青少年赤十字賛助奉仕団委員長 1 名 副委員長 1 名 支部職員 1 名 合 計 3 名
8	防災教育事業指導者養成 研修(Web)【再掲】	8月21日(土) ～22日(日)	日赤県支部 (山形市)	指導講師 1 名 支部職員 1 名 合 計 2 名
9	第1ブロック赤十字奉仕団委員長 会議及び奉仕団担当者会議 (文書審議)	9月22日(水)		奉仕団委員長 1 名 支部職員 1 名 合 計 2 名

No	研修・行事名	期 日	場 所	参加者
10	全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会第1ブロック会議(Web)	10月22日(金)	日赤県支部 (山形市)	県青少年赤十字賛助奉仕団委員長 1名 奉仕団員 2名 支部職員 1名 合 計 4名
11	令和3年度 赤十字奉仕団指導講師会議	11月19日(金)	日赤県支部 (山形市)	奉仕団指導講師 3名 支部職員 3名 合 計 6名
12	令和3年度 赤十字ボランティア・リーダーシップ研修	3月18日(金)	日赤県支部 (山形市)	奉仕団員 17名 支部職員 3名 合 計 20名

(4) 東日本大震災復興支援事業の実施

これまでの復興支援に携わった赤十字奉仕団と現地を訪問し、山形芋煮等の振る舞いのほか、10年の交流記録の動画上映、活動写真パネルの展示、メッセージツリーの作成などを行いながら思い出を語り合い、地域住民の方々と交流を図った。

行事名	期 日	場 所	参加者
令和3年度 東日本大震災復興支援事業	11月27日(土)	気仙沼市大沢 地区大沢集会所 (宮城県気仙沼市)	地域住民 80名 奉仕団員 9名 支部職員 8名 合 計 97名



山形芋煮のふるまいの様子



10年の交流記録動画上映



活動写真パネルの展示



作成したメッセージツリー

(5) 奉仕団主催の研修・行事等開催状況

各団では、団員育成や地域における赤十字事業の普及のため、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じたうえで各種研修・行事等を開催している。

No	研修名	期 日	場 所	参加者
1	山形県青少年赤十字 賛助奉仕団 役員会	4月20日(火)	日赤県支部 (山形市)	県青少年赤十字賛助奉仕団員 10 名 支部職員 2 名 合 計 12 名
2	山形県青少年赤十字 賛助奉仕団 第2回役員会	6月2日(水)	日赤県支部 (山形市)	県青少年赤十字賛助奉仕団員 8 名 支部職員 1 名 合 計 9 名
3	白鷹町わかあゆ会赤十字 奉仕団救急法講習会	8月1日(日)	白鷹町鮎貝地区 コミュニティセンター (白鷹町)	わかあゆ会赤十字奉仕団員 22 名 救急法指導員 2 名 合 計 24 名
4	山形県青少年赤十字 賛助奉仕団 第3回役員会	8月23日(月)	日赤県支部 (山形市)	県青少年赤十字賛助奉仕団員 7 名 支部職員 1 名 合 計 8 名
5	山形県スキーパトロール 赤十字奉仕団救急法 講習会	10月30日(土) ～31日(日) 11月6日(土) ～7日(日)	蔵王体育館 (山形市)	スキーパトロール赤十字奉仕団員 36 名 救急法指導員 3 名 合 計 39 名
6	山形県青少年赤十字 賛助奉仕団 第4回役員会	11月4日(木)	日赤県支部 (山形市)	県青少年赤十字賛助奉仕団員 9 名 支部職員 2 名 合 計 11 名
7	酒田市赤十字奉仕団 防災セミナー【再掲】	11月24日(水)	酒田市市民会館 希望ホール (酒田市)	酒田市赤十字奉仕団員 30 名 支部職員 2 名 合 計 32 名
8	米沢市赤十字奉仕団 防災セミナー【再掲】	11月29日(月)	北部コミュニティ センター (米沢市)	米沢市赤十字奉仕団員 20 名 支部職員 1 名 合 計 21 名
9	小国町赤十字奉仕団 防災セミナー【再掲】	12月18日(土)	小国町 健康管理センター (小国町)	小国町赤十字奉仕団員 15 名 支部職員 1 名 合 計 16 名
10	白鷹町青年赤十字奉仕団 救急法及び雪上安全法講 習会	12月30日(木)	白鷹町営スキー場 (白鷹町)	白鷹町青年赤十字奉仕団員 20 名 救急法等指導員 2 名 合 計 22 名
11	山形県青少年赤十字 賛助奉仕団 第5回役員会	3月11日(金)	日赤県支部 (山形市)	県青少年赤十字賛助奉仕団員 9 名 支部職員 1 名 合 計 10 名
12	赤十字ボランティア基礎研 修 (桐花会赤十字奉仕団)	3月16日(水)	ホテルメトロポリタン (山形市)	桐花会赤十字奉仕団員 4 名 山形市第五地区赤十字奉仕団員 3 名 支部職員 2 名 合 計 9 名

(6) 活動助成金の交付状況

各団のボランティア活動を推進するため、1団につき上限11万円として申請に応じて活動助成金を交付している。

区 分	申請団数	交付額
地 域 奉 仕 団	27 団	1,951,494 円
特 殊 奉 仕 団	5 団	472,528 円
青 年 奉 仕 団	0 団	0 円
合 計	32 団	2,424,022 円

(7) モデル奉仕団の指定

奉仕団活動の強化推進を図るため、管内の地域奉仕団の中核となるようなモデル赤十字奉仕団を指定した。

指定年度	奉仕団名	活動テーマ
令和3年度～令和5年度	高島町赤十字奉仕団	地域における奉仕活動

4 青少年赤十字

次世代を担う児童・生徒が、赤十字を正しく理解し、世界の平和と人類の福祉に貢献できる青少年の育成に努める。

(1) 青少年赤十字加盟登録状況

地 区	校種別 区 分	幼稚園 保育園	小学校 ※義務教育 学校を含む	中学校	高等学校	特別支援 学 校	合 計
村 山	園・学校数	166 園	103 校	45 校	25 校	12 校	351 校
	加盟校数	8 園	33 校	28 校	12 校	1 校	82 校
	加盟率	4.8 %	32.0 %	62.2 %	48.0 %	8.3 %	23.4 %
	メンバー数	968 名	8,921 名	7,837 名	240 名	34 名	18,000 名
最 上	園・学校数	25 園	18 校	9 校	6 校	1 校	59 校
	加盟校数	2 園	18 校	9 校	0 校	0 校	29 校
	加盟率	8.0 %	100.0 %	100.0 %	0.0 %	0.0 %	49.2 %
	メンバー数	245 名	3,767 名	1,357 名	0 名	0 名	5,369 名
置 賜	園・学校数	62 園	53 校	19 校	14 校	4 校	152 校
	加盟校数	5 園	25 校	6 校	7 校	0 校	43 校
	加盟率	8.1 %	47.2 %	33.3 %	50.0 %	0.0 %	28.3 %
	メンバー数	417 名	4,716 名	1,778 名	225 名	0 名	7,136 名
庄 内	園・学校数	99 園	58 校	22 校	15 校	3 校	197 校
	加盟校数	2 園	11 校	1 校	6 校	1 校	21 校
	加盟率	2.0 %	19.0 %	4.5 %	40.0 %	33.3 %	10.7 %
	メンバー数	214 名	2,357 名	409 名	1,110 名	33 名	4,123 名
合 計	園・学校数	352 園	232 校	95 校	60 校	20 校	759 校
	加盟校数	17 園	87 校	44 校	25 校	2 校	175 校
	加盟率	4.8 %	37.5 %	46.3 %	41.7 %	10.0 %	23.1 %
	メンバー数	1,844 名	19,761 名	11,381 名	1,575 名	67 名	34,628 名

<令和3年度新規加盟校(園)>

- 山形認定こども園あすなろ園(山形市)
- はらっぱ保育園(山形市)
- 高畠町立二井宿小学校(高畠町)
- 白鷹町立東根小学校(白鷹町)
- 白鷹町立荒砥小学校(白鷹町)

(2) 青少年赤十字指導講師の委嘱

青少年赤十字活動の充実及び普及拡大並びに広く赤十字事業を推進するため、青少年赤十字加盟校の元校長を青少年赤十字指導講師として委嘱している。

[指導講師の委嘱状況]

村山地区	最上地区	置賜地区	庄内地区	合 計
1名	0名	2名	1名	4名

(3) 青少年赤十字指導講師及び支部青少年赤十字推進員の活動状況

青少年赤十字未加盟校への加盟勧奨、青少年赤十字加盟校への指導・助言、県及び市町村教育委員会との連絡調整などを行っている。

[訪問回数]

青少年赤十字指導講師	支部青少年赤十字推進員	合 計
172回	218回	390回

(4) 本社主催各種会議・研修会への指導者の派遣

青少年赤十字への理解と認識を高め、青少年赤十字指導者の養成を図るため、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じたうえで、指導者を派遣している。

No	会議・研修会名	期 日	場 所	派遣者
1	青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成研修会(Web)	6月5日(土)	日赤県支部(山形市)	支部職員 2名
2	青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会(Web)	6月29日(火)	日赤県支部(山形市)	県指導者協議会会長 1名 (県立山形北高等学校校長)
3	指導主事対象青少年赤十字研究会(Web)	9月30日(木)	村山教育事務所(寒河江市)	村山教育事務所指導主事 1名
4	第1ブロック支部青少年赤十字研究会(Web)	10月15日(金)	日赤県支部(山形市)	JRC加盟校指導者 2名 賛助奉仕団 1名 合 計 3名

(5) 県支部主催各種会議・研修会等の開催

新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、感染防止対策を十分に講じたうえで、青少年赤十字活動の活性化を図るため、各種会議・研修会等を開催している。

No	会議・研修会名	期 日	場 所	参加者
1	第1回青少年赤十字指導講師打合せ会	5月31日(月)	日赤県支部(山形市)	指導講師 4名 支部職員 3名 合 計 7名
2	第2回青少年赤十字指導講師打合せ会(Web)	11月24日(水)	指導講師自宅及び日赤県支部(山形市)	指導講師 4名 支部職員 4名 合 計 8名
3	青少年赤十字山形県指導者協議会理事・幹事会及び青少年赤十字研究発表会(Web)	11月24日(水)	各加盟校、指導講師自宅及び日赤県支部(山形市)	県教委指導主事 1名 指導者協議会理事・幹事 12名 R1・R2研究推進校指導者 2名 置賜教育事務所指導主事 1名 指導講師 3名 賛助奉仕団 1名 支部職員 4名 合 計 24名
4	第3回青少年赤十字指導講師打合せ会	3月25日(金)	日赤県支部(山形市)	指導講師 3名 支部職員 3名 合 計 6名

(6) 防災教育出前授業の実施

新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、感染防止対策を十分に講じたうえで、青少年赤十字防災教育プログラムを活用し、防災・減災につながる出前授業を実施している。

No	学校・団体名	期 日	場 所	参加者
1	日本大学山形高等学校	7月15日(木)	日本大学山形高等学校(山形市)	1学年生徒及び教職員 約 310名 支部職員 2名 計 312名
2	中山町立中山中学校	7月20日(火)	中山町立中山中学校(中山町)	教職員 15名 支部職員 1名 計 16名

No	学校・団体名	期 日	場 所	参加者
3	中山町立中山中学校	9月22日(水)	中山町立中山中学校 (中山町)	全校生徒及び教職員 約 350 名 支部職員 2 名 計 352 名
4	上山市民生児童委員 連合協議会	9月27日(月)	上山市役所 (上山市)	主任児童委員 6 名 支部職員 1 名 計 7 名
5	中山町立中山中学校	10月24日(日)	中山町立中山中学校 (中山町)	全校生徒及び教職員 約 350 名 支部職員 2 名 計 352 名
6	山形市教育委員会	11月30日(火)	山形市立大曾根小学校 (山形市)	地区児童及び児童クラブ職員 20 名 指導講師 1 名 計 21 名
7	中山町立中山中学校	11月30日(火)	中山町立中山中学校 (中山町)	2学年生徒及び教職員 約 130 名 支部職員 1 名 計 131 名
8	山形市立第六中学校	2月18日(金)	山形市立第六中学校 (山形市)	全校生徒及び教職員 約 700 名 指導講師 1 名 支部職員 1 名 計 702 名
9	ゆりかご幼稚園	3月10日(木)	ゆりかご幼稚園 (山辺町)	園児及び教職員 約 100 名 賛助奉仕団員 1 名 支部職員 1 名 計 102 名
				受講者数合計 1,995 名

(7) 児童・生徒、メンバーの育成

① 青少年赤十字リーダーシップ研修(Web)の実施

青少年赤十字活動におけるリーダーを養成するためのリーダーシップ研修については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により昨年度は実施することができなかったが、今年度は、宿泊にこだわらず半日での開催やWeb開催等開催形式を変更し、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じたうえで実施した。

No	研修会名	期 日	場 所	参加者
1	小・中学校青少年赤十字 リーダーシップ研修	7月31日(土)	新庄市民 プラザ (新庄市)	青少年赤十字小・中学生メンバー 43 名 青少年赤十字加盟小・中学校指導者 6 名 指導講師 2 名 青少年赤十字賛助奉仕団 1 名 支部職員 2 名 合 計 54 名
2	高等学校青少年赤十字 リーダーシップ研修(Web)	9月11日(土)	各加盟校 及び 日赤県支部 (山形市)	青少年赤十字高校生メンバー 43 名 青少年赤十字加盟高等学校指導者 1 名 指導講師 2 名 青少年赤十字賛助奉仕団 3 名 支部・センター職員 3 名 合 計 52 名
3	第2回小・中学校青少年 赤十字リーダーシップ研修 (Web)	11月27日(土)	各加盟校 及び 日赤県支部 (山形市)	青少年赤十字中学生メンバー 18 名 青少年赤十字加盟中学校指導者 3 名 指導講師 1 名 青少年赤十字賛助奉仕団 1 名 支部職員 2 名 合 計 25 名



小・中学校リーダーシップ研修の様子



Web開催した高等学校リーダーシップ研修の様子

② 山形県高等学校青少年赤十字連絡協議会

新型コロナの影響により参集形式での活動ができない中、支部がホストとなり各校を結ぶWeb方式で総会や役員会等の活動を継続した。

総会においては、日赤本社で制作した新型コロナウイルス感染症を正しく知るための教材「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」に基づく活動方針を昨年度に引き続き維持しつつ、令和3年度の具体的な活動の方向性が提案され、承認された。

<活動方針>

- ・「正しい知識に基づき、日常において徹底して感染防止に取り組みます。」
- ・「自分の意志と他者への思いやりを持ち、偏見や差別には与しません。」

No	会議・研修会名	期 日	場 所	参加者
1	山形県高等学校青少年 赤十字連絡協議会 会長・副会長打ち合わせ会	5月8日(土)	山形市市民 活動支援 センター (山形市)	県高等学校連絡協議会役員 5名 県高等学校連絡協議会顧問 1名 支部職員 2名 合 計 8名
2	山形県高等学校青少年 赤十字連絡協議会 役員打ち合わせ会(Web)	6月4日(金)	各加盟校	県高等学校連絡協議会役員 10名 県高等学校連絡協議会顧問 1名 支部職員 2名 合 計 13名
3	山形県高等学校青少年 赤十字連絡協議会 第1回役員会(Web)	6月25日(金)	各加盟校	県高等学校連絡協議会役員 14名 県高等学校連絡協議会新役員立候補者 8名 県高等学校連絡協議会顧問 1名 支部職員 2名 合 計 25名
4	山形県高等学校青少年 赤十字連絡協議会 第2回役員会(Web)	7月26日(月)	各加盟校 及び 日赤県支部 (山形市)	県高等学校連絡協議会役員 16名 県高等学校連絡協議会新役員立候補者 11名 県高等学校連絡協議会顧問 1名 支部職員 2名 合 計 30名
5	山形県高等学校青少年 赤十字連絡協議会総会 及び研究集会(Web)	8月10日(火)	各加盟校 及び 日赤県支部 (山形市)	青少年赤十字高校生メンバー 80名 青少年赤十字加盟高等学校指導者 1名 県指導者協議会会長 1名 指導講師 2名 青少年赤十字賛助奉仕団 3名 支部職員 3名 合 計 90名
6	山形県高等学校青少年 赤十字連絡協議会 第3回役員会(Web)	9月11日(土)	各加盟校 及び 日赤県支部 (山形市)	県高等学校連絡協議会役員 19名 県高等学校連絡協議会顧問 1名 支部職員 2名 合 計 22名

No	会議・研修会名	期 日	場 所	参加者
7	山形県高等学校青少年 赤十字連絡協議会 第4回役員会(Web)	3月28日(月)	各加盟校、 自宅及び 日赤県支部 (山形市)	県高等学校連絡協議会役員 18名 県高等学校連絡協議会顧問 1名 支部職員 2名 合 計 21名



会長・副会長打ち合わせ会の様子



Web開催した連絡協議会総会の様子

(8) 本社及び第1ブロック主催研修会等への青少年赤十字メンバーの派遣

青少年赤十字活動におけるリーダーを養成すること等を目的に、本社及び第1ブロック主催の研修会等に新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じ、青少年赤十字メンバーを派遣した。

No	会議・研修会名	期 日	場 所	派遣者
1	青少年赤十字スタディー・ プログラム(Web)	12月25日(土) ～12月26日(日)	日赤県支部 (山形市)	青少年赤十字高校生メンバー 8名 支部職員 2名 合 計 10名
2	第1ブロック支部 青少年赤十字 高校生メンバー交流会	3月26日(土)	日赤県支部 (山形市)	青少年赤十字高校生メンバー 8名 支部職員 2名 合 計 10名

(9) 研究推進校の委嘱

活発な青少年赤十字活動を推進するため、研究推進校として年間6校を委嘱し、1校につき7万円の助成金を交付した。

各校では、コロナ禍を踏まえて感染防止対策を十分に講じたうえで、テーマに沿った活動に取り組んでいる。

No	学校名	テーマ	委嘱年度
1	社会福祉法人こども未来創生会 保育園型認定こども園 さくらこども園	「気づき、考え、実行する」子どもを育てる防災教育の取組	令和2年度 ～令和3年度
2	米沢市立窪田小学校	「防災について学ぶ」	
3	高畠町立高畠中学校	主体的に気づき、考え、実行する生徒の育成 ～生徒会スローガン”利他”をもとに～	
4	山形市立第五小学校	「挑み、楽しみ、つながりながら、自ら学び 続ける子どもの育成」 ～学びのサイクルを生み出す、体育科と 各教科・領域の学びを通して～	令和3年度 ～令和4年度
5	新庄市立新庄中学校	Pride & Respect ・自他の命を大切にし人と関わるための資質を 身に着けた生徒を目指して ・地域を見つめ地域と関わり地域のために考え 働く生徒を目指して	
6	山形県立山形西高等学校	地域に寄り添う西高生を目指して ～JRC活動のつながりをはかる～	
助成金交付合計額		420,000円(6校×70,000円)	

5 国際活動

国際赤十字の一員として、開発途上国における健康・安全の確保や、海外の災害や紛争の被災者支援など、海外の救援・支援ニーズにあわせた人道的活動を展開する。

(1) 第1ブロック支部合同国際活動

本社が直接実施している海外での救援及び開発協力活動のうち、次の活動について、北海道・東北ブロック支部共同事業として資金の支援を行った。

No	事業名	支援先	金額
1	救急法普及支援事業	ラオス	97,000 円
2	青少年赤十字海外支援事業	バヌアツ	336,000 円
合計			433,000 円

当初、上記に加え、ネパール青少年赤十字海外支援事業への支援(336,000円)を計画していたが、ネパール赤十字社において、新型コロナウイルス感染症への緊急対応を優先することとなったことから当事業が見送りとなった。

(2) ベトナム教育支援事業の実施

山形県高等学校青少年赤十字連絡協議会が中心となり、書き損じはがき回収活動を実施し、その資金を原資として、ベトナムの貧困地域の子どもたちへ学用品セット200セットを贈呈した。

なお、当初は青少年赤十字高校生メンバーが現地に赴き、子どもたちへ学用品セットを直接手交する計画であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、学用品セットの送付対応のみとした。



現地の赤十字関係者をはじめ多くの方々の協力もあり無事に子どもたちへ学用品セットが贈呈された

(3) 海外救援事業のための募金活動

① 海外救援金の受付

海外における自然災害の被災者や紛争犠牲者等を支援するため、海外救援金を受け付けている。

No	救援金名	件 数	金 額
1	中東人道危機救援金	1 件 (85 件)	673 円 (416,174 円)
2	バングラデシュ南部避難民救援金	1 件 (112 件)	525 円 (124,852 円)
3	2021年ハイチ地震救援金	138 件 (138 件)	183,558 円 (183,558 円)
4	アフガニスタン人道危機救援金	111 件 (111 件)	128,153 円 (128,153 円)
5	トンガ大洋州噴火津波救援金	100 件 (100 件)	223,730 円 (223,730 円)
6	ウクライナ人道危機救援金	315 件 (315 件)	10,715,753 円 (10,715,753 円)
7	海外救援金(無指定)	1 件	5,000 円
小 計		667 件 (862 件)	11,257,392 円 (11,797,220 円)
8	令和3年度NHK海外たすけあいキャンペーン寄付金	203 件	1,124,272 円
合 計		870 件 (1,065 件)	12,381,664 円 (12,921,492 円)

※()内は、受付開始からの累計受付件数及び受付額

② NHK海外たすけあいキャンペーンの実施

12月1日～25日まで実施した同キャンペーンの一環として、赤十字奉仕団員及び青少年赤十字メンバーから協力を得て、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に講じ街頭募金活動を実施した。

今年度は、従来からの支部主体の街頭募金活動として、青少年赤十字メンバーから協力をいただき県内各商業施設6ヶ所で実施するとともに、新たな取り組みとして、地域赤十字奉仕団が主体となって各地域の商業施設等と調整を図り、奉仕団単独による街頭募金活動を県内8か所で実施した結果、例年の約2倍の14会場での実施となり、多くの県民の方々からご協力をいただいた。

期 日	場 所	参 加 者
12月5日(日)	県内スーパーマーケット 及び公共施設等 計14ヶ所 (支部主体6ヶ所、奉仕団主体8ヶ所)	赤十字奉仕団 96 名 青少年赤十字中・高校生メンバー 59 名 支部職員 10 名 合計 165 名



県内各地で多くの県民の方々から多くのご協力をいただいた

6 財政基盤の強化

安定的な財政基盤を構築するため、地区区分及び関係機関の理解と協力を得ながら、活動財源である会費及び寄付金の募集を行うとともに、赤十字事業を推進するために、企業や団体と双方向での有益な関係作りを図る。

(1) 社資(会費及び寄付金)収入状況

昨年から続く新型コロナウイルス感染症の感染拡大による社会経済への影響が懸念される中、地区区分における社資募集については、コロナ禍を踏まえて依頼方法の変更や募集開始時期を例年よりも遅らせる等の対応を取りながら実施している。

支部における社資募集については、法人社資の増強方策として、昨年に引き続き個別訪問による協力依頼を県内249社を対象に実施した。

また、令和4年開催予定の「令和4年支部創設135周年記念山形県赤十字大会」における登壇受章者の確保のため、支部と地区区分が共同で、新規金色有功章受章対象寄付者の募集を実施するなど、財政基盤の安定強化に取り組んだ。

項 目		目標額	収入額	収入率
地区区分取扱社資	一般社資	214,043,000 円	195,182,161 円	
	法人社資		8,236,603 円	
	計	214,043,000 円	203,418,764 円	95.0 %
支部取扱社資	一般社資	5,278,000 円	9,858,563 円	186.8 %
	法人社資	23,477,000 円	24,865,630 円	105.9 %
	計	28,755,000 円	34,724,193 円	120.8 %
個人住民税控除適用海外救援金			120,000 円	
合 計		242,798,000 円	238,262,957 円	98.1 %

(2) 赤十字寄付金付自動販売機の設置の普及

企業や団体、地区区分に対して、売上の一部が赤十字への寄付金となる自動販売機の設置について広く普及に努めた。

区 分	設置先	設置台数
企業・団体	12 ヶ所	13 台
地区区分	1 ヶ所	1 台
支 部	1 ヶ所	1 台
合 計	14 ヶ所	15 台



県庁1階北側
出入口前設置
自動販売機

(3) 遺贈・相続財産寄付の受入体制の強化

地区区分及び県内金融機関、専門機関から協力いただき、遺贈・相続財産寄付パンフレットを作成・設置し、受入体制の強化を図った。

また、遺贈・相続財産寄付受け入れにかかる研修に職員を派遣した。

行事名	期 日	場 所	派遣者
「遺贈寄付ウィーク2021」 ウェビナー (Web)	9月13日(月)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 2名

(4) 本社主催等の各種研修・行事等の開催

社業振興の推進を図るため、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じたうえで、各種会議・研修会を開催したほか、職員を派遣した。

No	行事名	期 日	場 所	派遣者
1	第1回地区分区幹事会議	5月13日(木)	天童市 市民文化会館 (天童市)	地区分区幹事 他 32 名 支部・センター職員 8 名 合 計 40 名
2	地区分区新任事務担当者 会議	5月17日(月)	天童市 市民文化会館 (天童市)	地区分区事務委員 29 名 支部職員 7 名 合 計 36 名
3	第1ブロック支部 組織振興課長会議(Web)	6月30日(水)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 2 名
4	第2回地区分区幹事会議	7月27日(火)	山形県 自治会館 (山形市)	地区分区幹事 他 37 名 支部職員 7 名 合 計 44 名
5	日本赤十字社ファンドレイジ ングセミナー2021(Web)	9月27日(月) ～9月28日(火)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 2 名
6	第1ブロック支部組織振興 担当者研究会(Web)	10月14日(木)	日赤県支部 (山形市)	支部職員 2 名
7	第3回地区分区幹事会議	11月16日(火)	山形県 自治会館 (山形市)	地区分区幹事 他 33 名 支部職員 9 名 合 計 42 名

(5) 令和4年支部創設135周年記念山形県赤十字大会の開催に係る準備

令和4年に山形県支部が創設135周年の記念すべき節目を迎えることから、赤十字事業の推進に貢献された方々の顕彰を行い、県民及び赤十字関係者との連携を一層強化し会員の増強を図るとともに、赤十字思想の普及及び事業活動の推進に資するため、「令和4年支部創設135周年記念山形県赤十字大会」を開催することとしている。

今年度については、大会関連行事を円滑に実施するため、県、市町村等関係機関及び赤十字関係団体と連携しながら、行程の確認、会場の決定や出席者の調整等の事前準備作業を進めた。

(6) 赤十字功労者に対する顕彰の実施

赤十字事業の推進に多大な功労のあった方々に対して、その功績を称え、日本赤十字社有功章等贈与規則に基づき顕彰を行っている。

① 社資功労

表彰区分 功労区分	日本赤十字社 社長感謝状	金色有功章	銀色有功章	支部長 感謝状	支部長 表彰状	合 計
社資(個人)	2	2	4	0	2	10 件
社資(法人)	15	17	18	0	0	50 件
合 計	17	19	22	0	2	60 件

② 業務功労

表彰区分 功労区分	日本赤十字社 社長感謝状	金色有功章	銀色有功章	金柁支部長 感謝状	銀柁支部長 感謝状	合 計
役 職	0	0	0	0	0	0 件
協賛委員	1	4	10	23	55	93 件
奉仕者	0	1	3	5	0	9 件
献血者		60	83			143 件
青少年赤十字指導者	0	0	0	0	0	0 件
奉仕団	0	0	0	0	0	0 件
青少年赤十字加盟校	9	2	8	4	6	29 件
献血団体	0	5	2	1	3	11 件
献血推進団体	0	1	0	1	0	2 件
合 計	10	73	106	34	64	287 件

表彰制度について

赤十字活動資金のご協力に対しては、日本赤十字社や国からの表彰制度がございます。

■ 国の表彰

紺綬褒章(個人500万円以上、法人1,000万円以上)

厚生労働大臣感謝状(個人100万円以上、法人300万円以上)

※一時または同一年度の累計

■ 日本赤十字社社長感謝状

金色有功章受章後、
50万円以上納められた都度

■ 金色有功章 50万円以上を納められた方

(個人)



金色有功章章記



徽章



男章



女章



セト門標

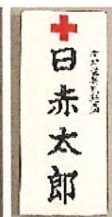
(法人)



金色有功章楯



徽章



セト門標

■ 銀色有功章 20万円以上を納められた方

(個人・法人)



銀色有功章楯



徽章

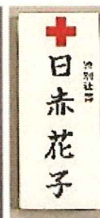


セト門標

■ 特別社員 会費2,000円×10年または一括20,000円を納められた方



特別社員章



セト門標

(7) 赤十字会員等に対する弔意

長年にわたり、赤十字を支えていただいた赤十字会員等がご逝去された際に、弔詞及びロウソクを奉呈し、弔意を表している。

種 類	弔 詞	無地ロウソク(2本組)	絵ロウソク(2本組)
地区区分への送付数	9,373部	3,331セット	6,526セット

7 広報活動

より多くの人々から、赤十字事業を正しく理解いただくため、周知と普及を図る。

(1) 広報誌「赤十字やまがた」の発行

5月の赤十字運動月間に合わせ、県民に広く赤十字運動に参加いただくため、全戸配付用広報誌を37万部発行し、地区分区を通じて配付した。

(2) 赤十字NEWSによる情報発信

「赤十字NEWS」を赤十字関係者に毎月送付するとともに(1,100部/月)、令和3年度からは、新たに会員向け情報誌「Cross Com-BOOK」を希望する赤十字会員に対し年2回送付し、情報発信に努めている。

(3) 支部ホームページ及びソーシャルメディアによる情報発信

災害救護をはじめとする支部の取り組みや県内赤十字関係者の活動について、支部ホームページに加えて、若年層を中心としたソーシャルメディア利用者にも情報発信していくことを目的に支部専用ソーシャルメディアアカウントを開設し、積極的に情報を発信している。

[ソーシャルメディアアカウント]

区 分	名前	ユーザーネーム	QRコード
Twitter	日本赤十字社山形県支部	@nissekiyamagata	
Instagram		nisseki_yamagata	

(4) メディアを活用した広報

赤十字事業の周知と普及を図るため、県内各報道機関より協力をいただき、広報活動を実施している。

① テレビ、ラジオによる広報

5月の赤十字運動月間及び年間を通した赤十字活動広報用CM(テレビ、ラジオ)を作成し、報道機関4社から放映にご協力いただき、県民への赤十字活動への周知を図っている。

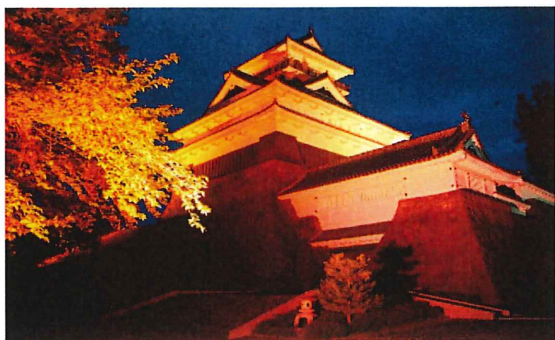
② 新聞広告による広報

広く赤十字事業にご理解をいただくため、5月の赤十字運動月間に合わせて、支部事業の紹介及び赤十字会員への加入促進に努めた。

また、9月1日の「防災の日」に向けて、8月30日に赤十字の防災・減災にかかる取り組みを紹介した。

(5) レッドライトアッププロジェクトの実施

5月の赤十字運動月間に、赤十字を広く国民に周知することを目的に全国各地の赤十字施設や歴史的建造物を赤十字のシンボルカラーである赤色に照らす「レッドライトアッププロジェクト」について、今年度、本県では上山城(上山市)を会場に実施した。



上山城全体を赤色に照らし多くの方にご覧いただいた

期 間	場 所
5月7日(金)～9日(日)	上山城 (上山市)

(6) 赤十字広報資材(赤十字広報パック)貸出事業の実施

県民に広く赤十字事業へのご理解とご協力をいただくため、行事・イベント等で活用いただくための広報資材(赤十字事業紹介用パネル、救援物資サンプル等)を貸し出し、赤十字活動のPRに努めている。

No	活用行事名	期 間	貸出先
1	糠野目地区文化祭	11月5日(金)～11月22日(月)	高島町赤十字奉仕団
2	もつくる感謝祭	12月7日(火)～12月15日(水)	日赤高島町分区

8 血液事業

県民の健康と生命を守るため、県、市町村及び関係団体と連携しながら、献血推進啓発活動を行う。

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、移動採血の中止があったが、代替え献血会場を確保し、感染対策を徹底したうえで、多くの県民の皆様に献血にご協力いただき、前年度と比較し101.4%の実績となり、需要に応じた献血血液の確保ができています。

[献血実績]

(単位:人、期間:令和3年4月1日～令和4年3月31日)

	令和3年度			令和2年度			対前年比
	献 血 者 数			献 血 者 数			
	移動採血車	献血ルーム		移動採血車	献血ルーム		
全血献血	28,605	24,598	4,007	28,535	24,172	4,363	100.2%
成分献血	13,402	－	13,402	12,906	－	12,906	103.8%
合 計	42,007	24,598	17,409	41,441	24,172	17,269	101.4%

※血液事業の詳しい状況については、別途「令和3年度血液センター事業実施概要」をご参照ください。

令和3年度 血液センター事業実施概要

1 血液製剤の供給実績

当センターでは、医療機関に安定的に血液製剤を供給するため、3日分の在庫を保有し、東北ブロック血液センターから1日に2回定時搬入をする体制をとっている。

供給実績については、新型コロナウイルス感染症による外来診療の制限があったものの、大幅な減少にはつながらず、前年度比97.6%となっており、安定的に供給できた。

区分	令和3年度実績 (単位)	令和2年度実績 (単位)	対令和2年度比
赤血球製剤	50,219	52,008	96.6%
血漿製剤	14,917	14,527	102.7%
血小板製剤	56,605	58,227	97.2%
合 計	121,741	124,762	97.6%

※単位換算について

赤血球製剤：「200mL 献血由来」を1単位、「400mL 献血由来」を2単位として換算

血漿製剤：「200mL 献血由来」を1単位、「400mL 献血由来」を2単位、「成分献血由来」を4単位として換算

血小板製剤：1単位 20mL で換算

2 献血実績

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、移動採血の中止があったものの、代替え献血会場を確保し、新型コロナウイルス感染対策を徹底したうえで、多くの県民の皆様が献血にご協力いただき、前年度比で101.4%の実績となり、需要に応じた献血血液の確保ができた。

(1) 献血者数

(単位：人)

	令和3年度			令和2年度			対令和 2年度比
	合計	移動 採血車	献血 ルーム	合計	移動 採血車	献血 ルーム	
全血献血	28,605	24,598	4,007	28,535	24,172	4,363	100.2%
200mL 献血	958	641	317	1,009	653	356	94.9%
400mL 献血	27,647	23,957	3,690	27,526	23,519	4,007	100.4%
成分献血	13,402	-	13,402	12,906	-	12,906	103.8%
血漿	8,948		8,948	8,717		8,717	102.6%
血小板	4,454		4,454	4,189		4,189	106.3%
合 計	42,007	24,598	17,409	41,441	24,172	17,269	101.4%

(2) 重点項目

医療機関からの需要及び輸血による安全性向上のため、400mL 献血の推進を図るとともに、輸血用血液を安定的に確保するため、移動採血の稼働効率化を図ることを重点項目としており、400mL 献血率は、目標値 97.2%に対し 96.7%、移動採血車 1 稼働あたりの献血者数は、目標値 45 人以上に対し 44 人となり、目標にはわずかに届かなかった。

ア 400mL 献血率

目標値	全血献血者数	200mL 献血数	400mL 献血数	400mL 献血率
97.2%	28,605 人	958 人	27,647 人	96.7%

イ 移動採血車 1 稼働あたりの献血者数

目標値	献血者数	稼働数	1 稼働あたりの献血者数
45 人	24,598 人	558	44 人

(3) 定点献血等の実施状況

定点献血会場として、大型ショッピングセンター等で定期的な献血を実施したほか、陸上自衛隊神町駐屯地へ定期的に移動採血車を配車し、前年度比 98.1%の献血実績となった。

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響による移動採血中止の代替会場としても臨時配車し、献血者を確保した。

(単位：人)

会 場	実 施 日	令和3年度			令和2年度			対令和 2 年度比
		回 数	献血者 総数	1稼働 あたり	回 数	献血者 総数	1稼働 あたり	
イオン山形北店	年4回	4	202	50.5	4	176	44.0	114.8%
イオンモール山形南	年4回	4	166	41.5	4	150	37.5	110.7%
イオンモール天童	毎月第3日曜日	10	535	53.5	12	590	49.2	90.7%
イオン東根店	奇数月第1土曜日	6	324	54.0	6	283	47.2	114.5%
こぴあ鶴岡店	毎月第2土曜日	12	726	60.5	12	702	58.5	103.4%
イオンモール三川	毎月第4土曜日	12	677	56.4	11	663	60.3	102.1%
計		48	2,630	54.8	49	2564	52.3	102.6%
陸上自衛隊神町駐屯地		3	117	39.0	5	236	47.2	49.6%
合計		51	2,747	53.8	54	2800	51.9	98.1%

(4) 山形県内の献血と供給のバランス

東北 6 県で献血いただいた血液は、すべて東北ブロック血液センターで検査及び製造され、必要な血液製剤が各地域センターへ分配されるが、山形県においては、県内で献血いただいた血液の量で、県内の医療機関への供給が十分に賄われた。

(5) 原料血漿の確保実績

血漿分画製剤の原料となる血漿は、安全性の確保並びに倫理的な見地から、その全てを国内の献血でまかなう方針が国から示されており、国内自給率 100%達成に向けて割り当てられた目標量を確保した。

原料血漿確保目標	確保実績	実績／目標量
102,281L	106,202L	103.8 %

※広域事業運営体制のため、青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島 6 県分の合算の数値

3 献血の普及啓発

(1) 各種団体等との連携

ア 献血セミナーの開催

若年層の献血者確保を図るべく、将来の献血を担う小・中・高校生等に、血液や献血に対する正しい知識を学んでもらうことを目的に、献血セミナーを実施した。特に、高等学校においては、コロナ禍での対応として、校内放送やリモートでのセミナーで献血啓発に取り組んだ結果、10 代の献血者数は前年度比 104.9%の実績となり、若年層献血者確保に効果があった。

	小学校	中学校	高等学校	大学	その他	計	令和 2 年度
実施回数	0 回	0 回	39 回	25 回	10 回	74 回	107 回
参加人数	0 人	0 人	3,492 人	1,390 人	263 人	5,145 人	3,997 人

【年齢別献血者数】

年代	計画数	令和 3 年度実績	構成比	達成率	令和 2 年度実績	対令和 2 年度比
10 代	2,300	2,225	5.3%	96.7%	2,121	104.9%
20 代	6,644	5,777	13.8%	87.0%	5,764	100.2%
30 代	7,848	7,346	17.5%	93.6%	7,428	98.9%
計	16,792	15,348	—	91.4%	15,313	100.2%
40 代以上	23,457	26,659	63.5%	113.7%	26,128	102.0%
合計	40,249	42,007	—	104.4%	41,441	101.4%



献血啓発に関するグループワーク
(新庄東高校)



校内放送形式による献血セミナー
(県立高島高校)

イ 学生ボランティアの育成

若年層の献血者を確保するため、同年代に対し献血の必要性を呼びかけてもらうことを目的に形成している県内の大学・短大・専門学校の学生を中心としたボランティア組織を拡充・活用し、学生献血推進ボランティアによる献血セミナーにも取り組んでいるほか、新型コロナウイルス感染拡大の制限下、各校内での推進活動及びメディアでの広報活動等を展開した。

【学生献血推進ボランティア】

山形大学、山形大学農学部、山形大学工学部、山形県立保健医療大学
山形県立米沢女子短期大学、酒田市立酒田看護専門学校、三友堂看護専門学校
山形県立米沢栄養大学、東北公益文科大学

(2) 広報及びキャンペーン活動

ア 広報活動

新型コロナウイルス感染拡大する中においても、献血者確保のため、広く県民に献血の普及啓発を図るべく、ホームページを通じ積極的に情報発信するとともに、県内報道機関への情報提供及び取材要請を実施した。

- ・ ホームページによる情報発信（通年）
- ・ SNS（twitter）による情報発信（通年）
- ・ いこう！献血キャンペーンラジオ、WebCMの放送（令和3年4月26日～6月30日）
- ・ いこう！献血キャンペーンテレビ、ラジオ、WebCMの放送（令和3年9月21日～）
- ・ 献血普及啓発テレビCM「折り紙チッチ」篇の制作・放送（令和2年3月から継続）
- ・ 県内各報道機関への献血予定情報の提供（通年）
- ・ 県内各報道機関へのプレスリリースの発信（通年）
- ・ モンテディオ山形と連携した広報活動の展開（通年）
- ・ パスラボ山形ワイヴァンズと連携した広報活動の展開（通年）
- ・ 県内市町村主催成人式における広報資材の配付（随時）

イ 各種キャンペーンの展開

新型コロナウイルス感染拡大の影響でイベント等は実施できなかったが、各種キャンペーンを実施し、献血協力を呼びかけた。

・全国キャンペーン

実施月	名 称
4 月～	いこう！献血キャンペーン
6 月	世界献血者デー（6 月 14 日）
	※ ABO 式血液型を発見し、ノーベル生理学・医学賞を受賞した カール・ラントシュタイナー氏の誕生日
7 月	愛の血液助け合い運動
12 月	全国学生献血クリスマスキャンペーン
	コミックマーケット 99 献血応援イベント
1 月	はたちの献血キャンペーン
2 月	ラブラッド新規登録キャンペーン
不定期	献血予約キャンペーン

・血液センター主催

学生献血サマーキャンペーン	令和 3 年 8 月 1 日（日）～28 日（土）内の 一部街頭献血会場にて開催
夏場の献血者確保を目的に、県内の一部街頭献血会場にて、献血にご協力いただいた方に、学生ボランティアが企画したオリジナル記念品を進呈した。	
やまがた春の献血キャンペーン	令和 4 年 3 月 5 日（土）～31 日（木）
献血者数が例年減少する傾向のある春期の献血者確保及び若年層献血者確保強化を図るべく実施。10～20 代の献血にご協力いただいた方に、オリジナル記念品を進呈した。	

・献血ルーム SAKURAMBO 主催

成分献血次回予約キャンペーン	令和 3 年 6 月 1 日（火）～3 月 31 日（木）
平日の成分献血の確保及び献血事前予約率の向上を目的に、献血終了後、次回の予約（平日の成分献血）をいただいた方に、オリジナル記念品を進呈をした。	
献血ルームクールシェアキャンペーン	令和 3 年 7 月 1 日（木）～9 月 30 日（木）
夏の暑い時期に、献血ルームを涼める場所として PR し、献血者に快適な場所を提供する「クールシェア」を展開。また、期間中の平日に成分献血に協力いただいた方に、記念品として「冷やしシャンプー」等を進呈した。	

モンテディオ山形応援キャンペーン
「モンテ応援デー」

令和3年2月25日（木）～12月7日（火）
※期間内の毎週火曜日・木曜日

毎週火曜日と木曜日を「モンテディオ山形応援デー」とし、特に使用期限の短い血小板製剤を安定的に医療機関に届けられるよう平日の成分献血の協力を求めた。期間中の毎週火曜・木曜に成分献血に協力いただいた方へオリジナル記念品を進呈した。



全国学生献血クリスマスキャンペーン
(こびあコープ酒田店)



CM「折り紙チッチ」編

(3) 献血予約及び複数回献血協力の推進

3密を回避するための新型コロナウイルス感染対策として、事前予約を広く周知するとともに、複数回献血協力の推進を図るため、献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の登録を奨励し、前年度比 131.5%の実績となった。

令和3年度 新規登録者数	令和2年度 新規登録者数	対令和 2年度比	県内 登録者累計
4,788 人	3,642 人	131.5%	19,296 人

4 調査、研究事業の推進

輸血医療の質的向上を目的とした調査研究事業を推進し、適正かつ安全な輸血療法の向上をめざし、県と合同で山形県の血液使用量の 90%以上を占める医療機関とともに県合同輸血療法委員会を開催した。

(1) 山形県合同輸血療法委員会での取り組み

- ア 廃棄血削減に関する取り組み
- イ 適正な輸血の実施に向けた取り組み
- ウ 地域連携を基盤とした取り組み

(2) 委員会の開催と学会等への参加

実施日	名 称	場 所	摘要
6 月 11 日（金）	第 21 回山形県合同輸血療法委員会	文書審議	委員 38 名参加
9 月 11 日（土）	第 119 回日本輸血・細胞治療学会 東北支部例会	福島県立医科大学及び WEB 開催	血液センター職員 4 名参加
9 月 14 日（火）	第 2 回山形県合同輸血療法委員会 看護師部会	WEB 開催	委員 11 名参加
11 月 9 日（火） ～11 日（木）	第 45 回日本血液事業学会総会	ロイトン札幌 （北海道）	血液センター職員 5 名参加
11 月 27 日（土）	第 22 回山形県合同輸血療法委員会	山形大学医学部	委員 32 名参加

5 研修の受入

輸血医学事業の一環として、山形大学医学部生を対象に、血液事業及び輸血医療に関する研修を実施した。

実施月	名 称	医療機関等	人数
通年	学外臨床研修	山形大学医学部	102 名
9 月	初期研修医研修	日本海総合病院	1 名

6 造血幹細胞提供支援の実施

造血幹細胞提供支援機関として、骨髄ドナー登録希望者に対し、事前説明及び登録受付を献血会場にて実施した。

令和 3 年度新規登録者数	県内登録者累計
352 人	8,214 人

7 血液センターの移転計画

血液事業本部が策定した地域センター施設整備更新計画に基づき、山形センターの移転新築整備については、当初計画から 1 年延長し、令和 3 年度から令和 4 年度の計画としたが、新型コロナウイルス感染症の影響により土地選定が難航しているため、さらに 1 年延長した計画とした。

令和 4 年度中に、移転候補地を選定予定。